




【自己負担金額っていくらなの？領収書の金額とは違うの？】




「自己負担金額の欄にはどの金額を書けばいいのですか？」という問い合わせがよくあります。自己負担金額とは、読んで字のごとく会員本人が負担した（支払った）金額のことで、必ずしも領収書の金額と同じではありません。

例) 入場料が大人 3,000 円、小人 2,000 円の施設に家族で行った場合




= 8,000円

会員 3,000円 + 配偶者 3,000円 + 子供 2,000円 = 8,000円



会員が3人分全額を支払った場合の自己負担金額

 2

8,000円 ÷ 2 = 4,000円

一旦、窓口で会員が全額支払ったが、後で子供分を含めて配偶者と折半した場合の自己負担金額（この場合はあと1,000円以上の対象の領収書が必要です）

3,000円 + 2,000円 = 5,000円

一旦、窓口で会員が全額支払ったが、後で配偶者から自身の分を渡された場合の自己負担金額

いずれも窓口で会員が支払っているのので、領収書は宛名が会員で金額は8,000円で発行されるかと思いますが、自己負担額は異なります。
 ※クーポンやポイントで割引されている場合は割引後の金額が自己負担金額です。

【子供の分も合算可とありますが、子供だけでも対象になるの？】









会員と配偶者、会員と子供の組み合わせは対象です。会員が全額支払った場合は全額対象（自己負担額）になります。

配偶者と子供、子供だけの場合は、会員が全額支払っていても補助の対象になりません。

あくまでも、会員本人が参加しているものに対して、配偶者や子供も一緒の場合は合算が可能ということです。会員が料金を負担していても、参加していない場合は補助の対象ではありません。一緒に現地に行っても、会員は外で休憩していて施設には入っていない場合等も対象になりません。

配偶者も互助会員で、自己負担金額が5,000円以上であれば請求することが可能です。その場合は同行者名簿を添付してください。5,000円未満の場合は他の対象の領収書と合算して5,000円以上になれば請求可能です。